

2020年度 横浜磯子教会標語

受けるよりは与える方が幸いである

使徒言行録 20章 35節

横浜磯子教会 2020年度教会標語『受けるよりは与える方が幸いである』

(使徒言行録 20章 35節)

【2020年度目標:御言葉に生きる教会形成】

牧師 中村 清 副牧師 鳴坂 明人

2020年度は、「教会設立 50 周年教会宣言文」の (3) にあたる「聖書に親しみ、次の世代に信仰を継承します」を主題とします。この主題のもとに、『受けるよりは与える方が幸いである』(使徒言行録 20 章 35 節) を 2020 年度の教会標語と致します。

このみ言葉は、パウロによって紹介されたただ一つの主イエスの言葉です。パウロはこの箇所、エフェソの長老たちに対して、キリストの教会とは何か。そこにおいてどのような指導が行われなければならないのかを語っています。しかも、それは理論や観念ではなく自分自身の姿を模範、手本として示し、それに習うようにと教えています。キリストの言葉に聞き、それに従って生きることの大切さを語っています。

キリストがわたしの救いのために命を与えてくださったので、私たちも受けることだけでなく、自らを与えていく教会として歩みたいと思います。パウロはコリントの信徒の手紙二 9 章 6 節以下で、「惜しんでわずかしか種を蒔かない者は、刈り入れもわずかで、惜しまず豊かに蒔く人は、刈り入れも豊かなのです。各自、不承不承ではなく、強制されてでもなく、こうしようと心に決めたとおりにしなさい。喜んで与える人を神は愛してくださるからです」と語っています。自分に対しては多くを使用しても、神や隣人に対しては、自分が痛まない程度に仕え、捧げているのが私たちです。このような私たちに対して、与えられたみ言葉(使徒言行録 20 章 35 節) に応答していきたいと思ひます。